

本社新築を機にコミュニケーション基盤を刷新し、拠点 PBX を統合 ワイヤレス LAN と検疫ソリューションも含む トータルなユニファイド コミュニケーション システムを構築



株式会社メイコー

<http://www.meiko-elec.com/>

 電子回路基板の設計、製造、販売、電子機器の開発、製造、販売
従業員数：1,081名

導入ソリューション

シスコ ユニファイド コミュニケーション

検疫ネットワーク (NAC アプライアンス)

ワイヤレス LAN

さまざまな機器に不可欠なプリント配線板の設計から販売までを手がけるメイコーは、本社ビルの新築を機にコミュニケーション基盤を刷新し、業務効率を高めている。シスコのユニファイドコミュニケーション、ワイヤレス LAN、検疫ソリューションの連携によって、機動力に優れ、確かな意思疎通が行える環境を実現した。

導入前の課題、検討事案

- ・各拠点に PBX があり、相互の連携や管理コストの面で不満があった
- ・海外拠点におけるシステム構築とサポートを確実にやりたい
- ・出張先の確認や都度の取り次ぎなど、電話にまつわる業務効率を改善したい
- ・安全に運用できるワイヤレスネットワークを実現したい

導入効果

- ・拠点の PBX を UC に統合し、相互連携、管理コストの問題を共に解決
- ・デュアルフォンの採用で、いつでもどこでも同じ番号で相手に電話でき、無駄な取り次ぎ業務が大幅に削減
- ・高速なワイヤレス ネットワークを安心して使えるようになり、スムーズなデータの受け渡しをはじめ業務効率が向上

1 導入のきっかけ——本社ビルの新築、各拠点の PBX 撤廃を機に コミュニケーション基盤を刷新

携帯電話、デジタル家電、車載電装部品など、さまざまな分野に不可欠なプリント配線板の設計、製造、販売を手がけるメイコーは、人の活力を引き出し、よりよい製品を生み出す環境を整えるために本社ビルを新築。同時にコミュニケーション基盤を刷新することで、より効率の良いビジネスが行えるようにしている。各拠点の PBX を廃し、機能面、管理面で大きな効果を求めていた同社は、シスコのユニファイド コミュニケーションを選択。さらにワイヤレス LAN と検疫ネットワークも導入し、トータルな環境を構築した。

ワーク全体をトータルに構築できる高い技術力を持っていることなどが挙げられる。

を大幅に削減

- ・デュアルフォンの導入によって機動力が高まると同時に、無駄な取り次ぎ業務がなくなった
- ・検疫ソリューションを組み合わせたワイヤレス LAN 環境が整い、安全かつ高速なネットワークを利用して、出張先でも普段どおりの業務が行えるようになったことに加え、お客様向けワイヤレス LAN ゲストアクセスも準備し、顧客満足度を向上。

3 導入プロセス——国内拠点に順次展開、海外拠点への導入も進行

本社や支店、営業所などへのユニファイド コミュニケーション導入はほぼ完了し、工場への展開も進んでいる。ワイヤレス LAN の導入も同時に行っており、緩やかなペースで着実に刷新中。海外拠点も同様で、いずれもトラブルなく進行している。

5 今後の展開——国内外の各拠点へ導入し、全社的な環境を整備

- ・高性能な電話機をより使いこなして、業務に役立てていきたいと考えている。
- ・未導入の国内拠点、海外拠点への展開を順次進め、全社的な環境を整えていきたい。

2 シスコを選んだ理由——海外でのシステム構築とサポート、検疫を含むトータルなシステムの実現

今回、シスコを選んだ理由としては、

- ・海外の拠点でも、スムーズなシステム構築、サポートが行えること
- ・ワイヤレス LAN や検疫を含め、ネット

4 導入効果——使い勝手、機動力が大きく向上。ワイヤレス LAN も早いペースで浸透

- ・システム統合により、電話システム自体の機能が大きく向上して利便性が高まった
- ・各拠点の PBX をユニファイド コミュニケーションに統合したことで、管理コスト



導入の経緯～ 導入プロセス

優れた製品を生み出す環境を目指して本社ビルを新築し、 コミュニケーション基盤を刷新

携帯電話やデジタル家電、車載電装部品など、さまざまな分野に不可欠なプリント配線板の設計、製造、販売を手掛けるメイコーは、人材の活力を引き出し、より優れた製品を生み出すオフィス環境を目指して本社ビルを新築した。同時に社内コミュニケーション基盤を刷新して、ビジネスの発展をさらに確かなものにしようとしている。そこで同社は、シスコのユニファイド コミュニケーションを選択し、ワイヤレス LAN と検疫ネットワークも組み合わせたトータルなシステムを構築した。

取締役常務執行役員 総務部長の鈴木哲郎氏は、ビジネス展開やコミュニケーションに対する同社の方針を、次のように語る。

「弊社は町工場の状態からスタートし、今では国内、海外に多くの拠点を持つようになりました。その過程で人の交流が増え、コミュニケーションの重要性も

高まってきたわけ
です。

プリント配線板と
いう“軽薄短小”
なものを作るに
は、清潔であるこ



と、整理されていること、この2つはとても大切です。これは日本人の気質、風土と言ってもいいかもしれません。日本が持つモノづくりの力、難しいものを新しく作り出す力をしっかりと支えられる環境を実現することが大事だと考えています。

モノづくりは大勢の人がコミュニケーションを取りながらやることですから、一人で囲い込んでしまえば発展性がなくなってしまいます。技術やノウハウをきちんと伝えていくことができるように、いろいろと取り組みを進めているところです」

同社はこれまで5年ほどのペースで電話システムを更改しており、その時点で最善のものを選択してきたという。今回シスコを選んだ理由について、総務部 情報システム課 課長の堀川裕之氏は次のように語る。

「いくつかのベンダーを検討しましたが、シスコに決めた一番のポイントは、海外でもシステム構築がスムーズに行えること、サポートも受けられるということですね。弊社は中国とベトナムに工場があり、欧米にも拠点があります。そうした地域でも、現地のSI事業者を通じてシステム構築とサポートを確実に進められることは重要でした。グローバルに展開しているシスコならではの部分だと思います」

導入効果

PBXの撤廃・UC統合によって機能、効率、コストを大きく改善。 ワイヤレス LANの導入でビジネスの機動力も向上

今回のシステム構築は、

1. 各拠点にあるPBXをCisco Unified Communications Managerに統合する
2. デュアルフォンと無線IPフォンによって機動力を高める
3. ワイヤレス LAN と検疫ソリューションを組み合わせた安全な通信環境を実現する

以上の3つが主な要件となっている。

「拠点ごとにPBXがあり、IPゲートウェイでつないでいたときは、拠点をまたいだ電話が番号非通知になってしまい、誰からの電話かが分からないなど連携に難がありました。今回のシステム刷新で改善され、利便性が大きく向上しています。管理コストの削減も、効果が大きいですね。

また、グループウェアとして運用しているLotus Notesとユニファイドコミュニケーションを連携させて、Lotus Notesのメーカーでボイスメールも受信できるようにしました。ひとつの受信ボックスで通常のメールとボイスメールを管理できるので、こちらも非常に効率が良くなりました。

デュアルフォンは無線IPフォンとして社内で使うときと、携帯電話として外で使うときの切り替わりもスムーズで、営業や経営企画など外に

出る機会が多い人が活用しています。どこにいても同じ番号でつながるので、以前のように別の人に行き先を聞いて、改めて相手先に電話し直すといった面倒がなくなりました。取り次ぎの負担も減って、業務効率が高まっていると感じます」

デュアルフォンを活用するには、社内にワイヤレス LAN の設備が必要になる。同社はこれまで、「いわゆる食わず嫌い」(堀川氏)で、セキュリティに難があると判断してワイヤレス LAN の導入を見送っていた。今回のシステム刷新を機に、いよいよ決断することになったという。

「当初はデュアルフォンのためにワイヤレス LAN を入れる、という発想だったのですが、これをPCで利用できないのはもったいないという話になりました。そこで、セキュリティの課題はどう解決するのか、いろ

んな解決策を探りました。ワイヤレス LAN の導入は、セキュリティの課題を解決するだけでなく、業務効率を高めることも期待しています。今回のシステム刷新で、ワイヤレス LAN の導入が実現し、社内にワイヤレス LAN の設備が整ったことで、デュアルフォンが活用しやすくなりました。これによって、業務効率が高まり、取り次ぎの負担も減りました。また、ワイヤレス LAN の導入によって、セキュリティの課題も解決しました。ワイヤレス LAN の導入は、セキュリティの課題を解決するだけでなく、業務効率を高めることも期待しています。今回のシステム刷新で、ワイヤレス LAN の導入が実現し、社内にワイヤレス LAN の設備が整ったことで、デュアルフォンが活用しやすくなりました。これによって、業務効率が高まり、取り次ぎの負担も減りました。また、ワイヤレス LAN の導入によって、セキュリティの課題も解決しました。



▲デュアルフォン

いと検討した結果、検疫ソリューションを入れることになったという流れですね。海外のお客様がワイヤレス LAN を使いたいと希望されるケースも増えていて、不可欠なインフラになっていると実感しています。私たちの経験が不足している分野だったので、システムの刷新と合わせて、シスコをお願いすることにしました。信頼性はもちろんですが、ユニファイドコミュニケーションとの親和性も高く、満足しています」

トータルな環境を構築したことによって、どの拠点でもスムーズかつ安全にネットワークを利用でき、業務効率が大きく向上しているとのこと。CAD ファイルなど大容量のデータも資料として頻繁に行き交

うため、その効果は意外と早く広まっている。

「拠点に入ってワイヤレス LAN につなげば、出張先でも普段どりに仕事ができるのは、やはり便利です。検疫でしっかり防御しているので、安心して使えます。

実は、あまり積極的に告知していなかったのですが、あっという間に定着してしまいました」と堀川氏は笑う。



▲検疫ソリューション
Cisco NAC Agent

今後の展開

**国内外の各拠点へ導入し、全社的な環境を整備。
社会に貢献できるモノづくりのために、優れたコミュニケーション基盤を実現したい**

今後は、国内の全拠点へのシステム展開、そして海外拠点への導入を進めていくという。国内拠点のリニューアルは、電話機だけでも 500 台以上という規模になるため、相応の時間が必要と考えている。こうした作業では、タイミングも大事だと堀川氏は語る。

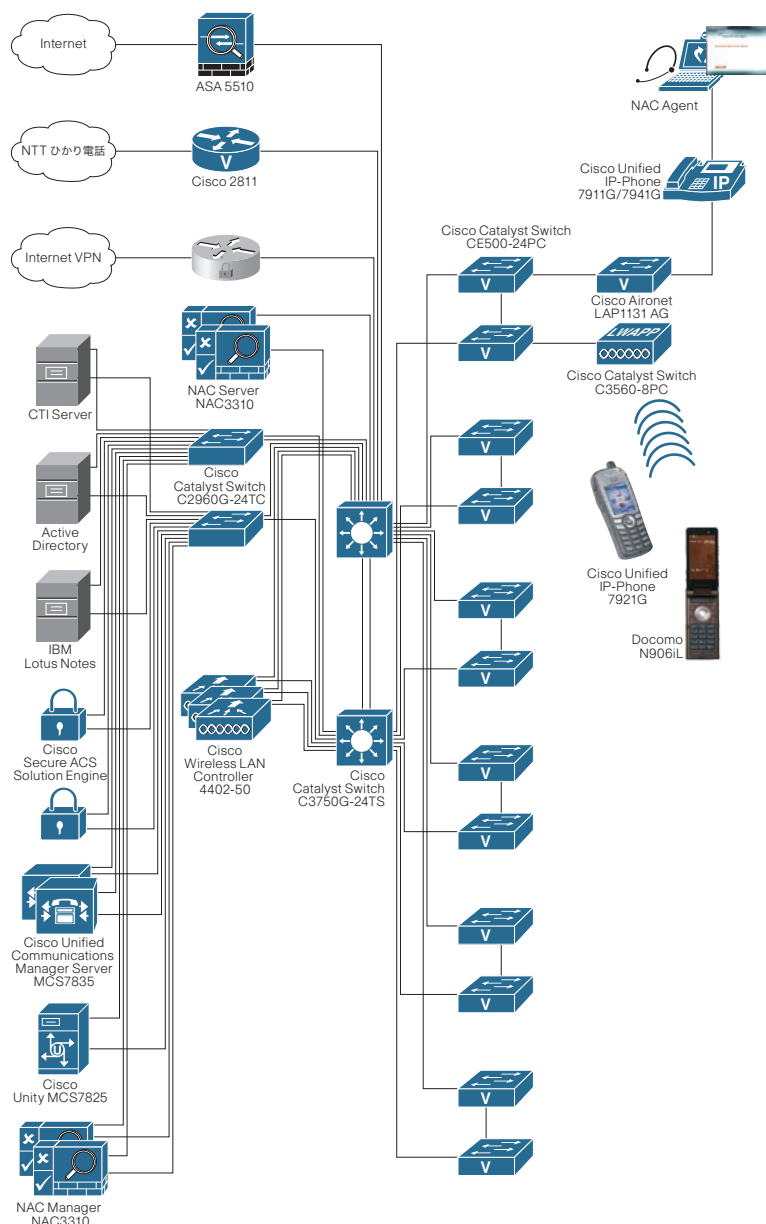
「国内は営業所などへの展開がほぼ終わり、宮城と山形の工場などに導入すれば完了という段階です。ワイヤレス LAN の展開も同時に行っているため、時間は少々かかっても着実に拡げていく方向で進めています。

海外では、ベトナムの工場が建設中なので、最初から導入しようという意見もあったのですが、言葉の問題なども踏まえて、少し先に延ばすことにしました。現地側で不要要素を抱えてしまうのはよくないので、こちらも着実に進めていく予定です」

鈴木氏は、同社のこれからの見据えて、次のように語ってくれた。

「組織というものは、コミュニケーションなくして成り立ちません。それをいかに的確に行い、相手の気持ちを理解できるかは、とても重要なことです。携帯電話やテレビ会議、ネットワークはそのためのツールとして必要不可欠になりましたし、これからもっと進歩し、活用されていくでしょう。日常のちょっとした違和感に気付いたり、フィーリングを共有したり、お互いを理解しながら、よりよい仕事をし、優れた製品を生み出していくことが求められています。

弊社の製品が、そうしたツールの中に組み込まれているということは、世の中の役に立っているということなのかなと思います。これからも人に感謝される、社会に貢献できる日本ならではのモノづくりを続けて、世界を相手に負けない企業になることが目標です。そのために必要な環境づくりの一環として、優れたコミュニケーションの基盤を整えていければと思っています」



会社概要

株式会社メイコー

資本金：88億6,065万円

従業員数：1,081名（2008年9月30日現在）

グループ全体 10,633名（国内 2,071名、海外 8,562名）

電子回路基板（プリント配線板）の設計、製造、販売におけるトップメーカーとして、さまざまなエレクトロニクス機器の中核を担う部品を、高い品質で安定的に供給する優れた技術と生産設備を有する。顧客のニーズに応じたカスタム開発、スピーディな対応を得意としており、さらに部品調達から配線板上への実装、出荷まで、すべてのプロセスを一元的にアウトソーシングできる EMS（Electronic Manufacturing Services）も手がけている。

「顧客に最高の価値とサービスを提供し社会に貢献する」「最高への挑戦」「企業の価値を高め社員と社会に幸福を」の3つを経営理念とし、国内外の拠点を生かしてグローバルに展開。工場排水の浄化やリサイクルをはじめ、環境への取り組みも積極的で、いくつもの表彰・受賞歴を持つ。

国内では、神奈川、福島、山形、宮城などに、海外では中国の広州と武漢、ベトナムなどに生産拠点を設けて、工場ごとの特色を生かした生産を実施。販売網は、国内に5拠点、海外は5カ国10拠点があり、広範なマーケットに対応できるネットワークを確立している。

©2009 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は 2009 年 2 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯電話・PHS含む)

電話受付時間：平日10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

お問い合わせ先